



あしからず
頑張ります

止田卓史

止田 「ということで、止田です。」
卓史 「卓史です。」
止田・卓史 「二人合わせてセルゲイ・ブブカです。」
セルゲイ 「…えーと、このネタすごく昔にやった気がしますけど。」
ブブカ 「10年位前にやりましたね。ま、いいじゃない。」
セルゲイ 「ま、いいか。で、なんで今FF7なんですか？」
ハズ 「ん？そりゃあ、おめえ…え〜と…ジャンケンよ!!」
ギル 「何も考えてないんかい。つーかなんでハーン兄弟よ。」
ハズ 「え？好きだから。」
ギル 「話と流れと俺たちの友情の全てをぶった切っておいて、言うことはそれだけか。」
ハズ 「金色のファルコを道連れにできるのだ、笑って見送れい!!」
ギル 「話聞けよ。」
ハズ 「あーもー、ごちゃごちゃうるさいな！好きだからで何が悪いんだよ！」
ギル 「つまり、それが今回のネタがFF7な理由ですか。好きだけど古いものをあえて描こうと？」
ハズ 「FF7？」
ギル 「知らんのか。」
ハズ 「ティファのおっぱい物語？」
ギル 「東武ワールドスクウェア・エニックスに失礼だろ。」
ハズ 「ここは華麗な玉手箱。」
ギル 「反省の色なしか。つーか日本人口の8割は置いてけぼりだな。」
ハズ 「えー、冬といえば雪、雪といえばスノー、スノーといえばFF7です。」
ギル 「わーい、すごいスルーっぷりだよ、この人。」
ハズ 「だから今回の本がFF7になった…ってことはないんですが。」
ギル 「ま、なんつーかすごいゲームでしたね。3枚組みだったし。」
ハズ 「…正直言うとアドベントチルドレン見るまで、内容を忘れてたんですが。」
ギル 「もっと正直に言うとアドベントチルドレン見ても全部は思い出せなかったんですが。」
ハズ 「ティファのでかい乳はすっかり思い出しました。」
ギル 「『乳はゲームより強し。うーん、こいつは名言だな』って感じなのか。」
ハズ 「とにかく乳。」
ギル 「お前のほうが失礼だよ。」
ハズ 「すいません。」
ギル 「まあいいや。どうでも。とにかく乳。」
ハズ 「明日も乳。」
ギル 「どこまでいっても乳。」
ハズ 「どっちを向いても乳。」
ギル 「乳とYシャツと私。」
ハズ 「荒野の乳人。」
ギル 「所変われば乳変わる。」
ハズ 「少年よ大乳を抱け。」
ギル 「チチキトクスグカエレ。」
ハズ 「乳×乳=49。」
ギル 「振り向けばそこに乳。」
ハズ 「玄関開けたら2分で乳

ハズ・ギル「乳ーーーーーっ!!」

ハズ 「つーか、いつまで俺ハズなんだよ」
ギル 「お前のせいだつーの。」
ハズ 「つーか、そもそも俺誰だっけ？」
ギル 「お前卓史。俺止田。」
卓史 「うーん…なんか、俺がお前な気がするんだよ。」
止田 「マジで!?俺も、俺がお前な気がしてたんだよ。」
卓史 「つーか、実は二人とも止田卓史なんじゃね？」
止田 「二人で止田卓史じゃね？」
卓史 「ああ…ようやく全てを思い出したよ…。」
「すがすがしい気持ちだ。」
止田 「それじゃ…。」
卓史 「いくか…。」
止田・卓史 「フュ—————ジョンッ!!」

というわけで、楽しんで頂ければ幸いです。

2006.1.29/ 止田卓史



「それでは憐れな囚われの
ティファ・ロックハートさんには
実験の被験者になってもらいまーす」

「それにしても
いやらしい乳ですねー」

「そうですねー」
「いいですねー」

「くっ…結局
そんなこと…しか
やることないの？」

「くッ!!」

「異議なーし」

「はーい生意気な
乳女にはとりあえず
注射打つときまーす」

「なッ?! やめ……」

「ひくッ!!」

は…あ…

あきゅん

「くだらない
連中だーわー」



「ひっ!! あっ…あ
何コレ…やだッ…
おっぱい…やだ…やだッ…

「やあああああッ

がくがく

はあはあ…

「はーい、乳汁発射

きゅん

きゅん

「エロい肉体の人ほど
薬、よく効きまーす」

きゅん

きゅん

「じゃ早速こっちの発射も
手伝ってもらおう方向で

「ひん…あッ…やだ
やめて…ちく…びやだ…

「乳の脂肪がしっとりねっとり
ちんこにまとわりついてきますな」

はあ…

きゅん

「だめ…おっぱい
だめ…

「おーすばらしい
乳肉庄」

きゅん

「お…ぱい…の先っぽ
…やだあああ…

ぬりゅん

ぬりゅん

「ひはああああッ!!」

「はーい、すっかり
おとなしくなつてしまった
ティファさんですがー」

「……あ……う……」

「いけませんねー」
「元気出してきましょーよ」

「じゃ気合入れるために
電気でも流じてみましょーか」





「やだあ……」

「もう…変なこと
するの
やめてえ……」

ぎゅう

「いやあ 私共も
ティファちゃんに
元気出してほしい
だけですから」
「そうそう そんな
遠慮しないで」

「んじやパチツとな」

ON
OFF

「ひぐうらッ!!」

バチッ

「ははははははッ!!」

「ははははッ!!」

「あーずいぶんおっぱいも」「まさに乳牛ですな」
はれ上がってきましたねー」

「あふ……あ……う……」
「お……ぱい……じん……じん……」
する……よ……う……」

「あーもわかんねー」
何言ってるかわかんねー」

「え？、乳だけじゃなくて
ケツ穴やらまんこが
さみしいって？」

「あ……ん……あ……ふあ……」

お

ブッ

「やーやー、それは気付かず、
申し訳ないことしましたな」

あきッ

「じゃ早速」

「ひややああふああッ」

16/6/3!!

「いやあ、こんな愚息で
お喜び頂け誠に光栄ですなあ」

「じゃーこっちも
ペろペろしましようか」

「んむう...うふ...うん」

「いやー2本もくわえこんじゃって
ティファちゃんは欲張りですねー」

「ん...あッあッああ...ッ」

「ずいぶん気持ち
よさそうですねー」

「ティファちゃんずいぶん
こなれちゃいましたね」

「ちんこ好きになった？」

ぬー「ん...ふ...ふあ...い...」

「もっとはつきり言えよ」

「ふ...あい...ちん...ほ...
...す...すきれ...すう...
おっはい...も...おま...んこ...も
...きもち...いい...ですう...」

616630

「じゃ気持ちいい
おっぱいで
乳内射精ね」

「味はどうだ？」

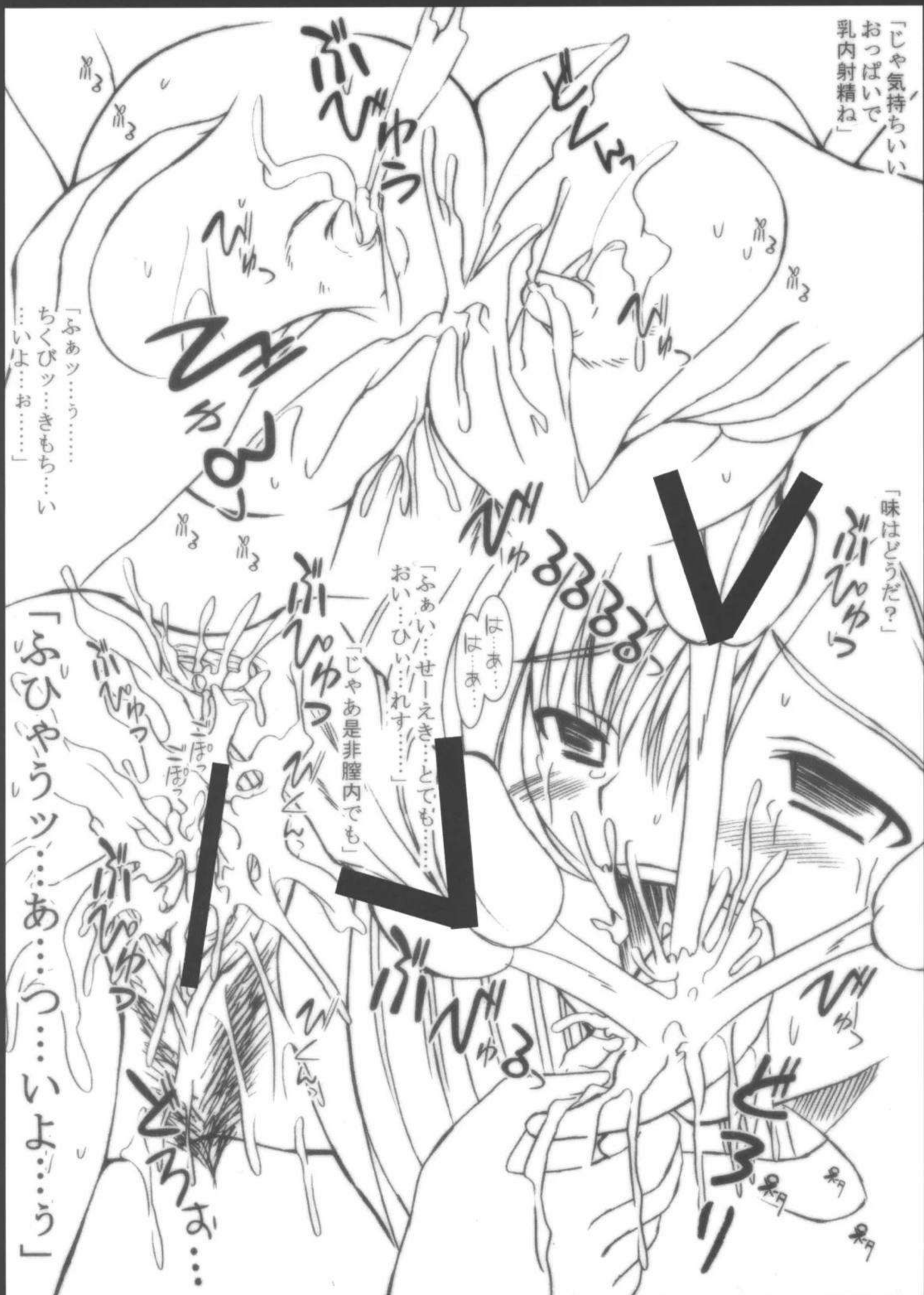
「はあ...
はあ...」

「ふあい...せーえき...とても...
おい...ひい...れす...」

「じゃあ是非膣内でも」

「ふあッ...う...
ちくびッ...きもち...い
...いは...お...」

「ふ...ひ...あ...ら...ッ...あ...う...う...う...う...う...」



「やべ ちよつと薬
入れすぎちつたな」

「化けモンだよ これじゃ」



あは...あ...
あは...あ...

がく がく

がく がく

びしょ
びしょ

びしょ
びしょ

びしょ
びしょ

びしょ
びしょ

びしょ
びしょ

「捨てちまうか」

「んだな」

あしたから頑張る

2006.1.29